

## 第 58 回日本糖尿病学会関東甲信越地方会開催報告

2021 年 1 月 30、31 日の土、日曜に完全ウェブ方式にて開催させていただきました第 58 回日本糖尿病学会関東甲信越地方会の概要について報告させていただきます。

本会は新型コロナウイルス COVID-19 の流行真ただ中、全国で緊急事態宣言が発出されている最中に行われたため、多くの学会関係者の方々からのアドバイスをいただき完全ウェブとすることに決定しました。当初はオンディマンドやハイブリッド開催を模索しましたが、皆がリアルタイムで聞いていただいているところで一般演題を発表し、その場で討論するという地方会では最も大切と思われるアクションを抜きにはできないと判断したため、発信基地を当初リアル開催予定であった大田区産業プラザ PiO に置き、ZOOM を用いた完全ウェブ方式といたしました。この当時にはこのような形式をこの規模で行う学会は全国見渡してもあまり前例がなかったためかなりの挑戦的な方法となりました。日本コンベンションサービスや総合医学研究所の皆様の多大なご協力により、ひとつの ZOOM のセッションに 400 人ほどの参加者が入るところもある、といった活発なディスカッションを展開し、リアル以上の盛り上がりを見ることもありました。予め事前オリエンテーションを行うなどしたことも幸いし、本番では一度もトラブルは起こりませんでした。ご協力いただいた、参加の皆様のご支援のお陰であり、心からお礼申し上げます。この経験はその後の糖尿病学会の関連学会開催形式にも大きく寄与したと自負しており、in person で行えなかったとはいえ、意義深い学会となったと思います。

学術プログラムとしては、通常の地方会の枠を超えた特別企画を多数設けることができました。一般演題 210 題に加え、会長企画や多数の聴講者を集めることができた「激論！糖尿病診療」を含むシンポジウム 4 セッションおよび「女性糖尿病医を promote する委員会」との共催企画 1 セッションを実施いたしました。また、ランチョン・イブニングセミナーに代わる WEB セミナーは過去最大の 14 セッションを実施できましたが、これは協賛企業各社様のご協力のお陰というのは言うまでもありません。

おかげさまで、医師・一般 1,649 名（前年 1,484 名）、メディカルスタッフ 940 名（前年 1,332 名）、無料参加者・招待者 137 名（前年 116 名）の合計 2,726 名（前年 2,932 名）と前年のリアル学会とも遜色のない、大勢の方に参加していただき、活発な意見交換が行われ、盛会裏に終わることができました。多くの黒字分を関東甲信越地方会支部にお返しすることもできました。改めて参加いただいた皆様に厚く御礼申し上げます。

2022 年 1 月 21 日

東邦大学医学部内科学講座 糖尿病・代謝・内分泌学分野

弘世 貴久